

創業50年の節目の年に、自社施設の集積地に設置した今後を占う家族葬邸宅会館

平安閣CASITA [青森県青森市]

時代とお客ニーズに応える 家族葬向け邸宅会館を2年越しで設置

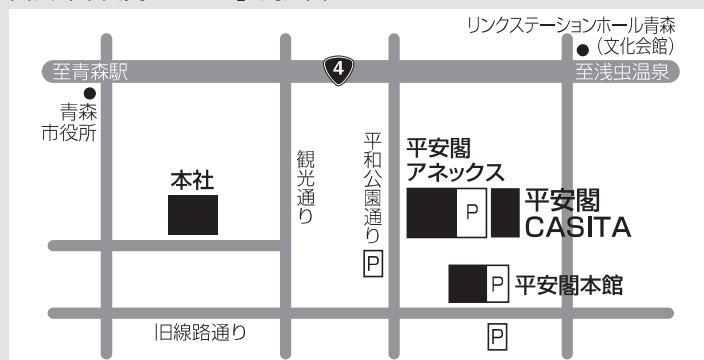
青森県の県都である青森市の玄関口・青森駅から車で東に10分、住宅地の街中の一角に2016年9月26日に新規開業したのが「平安閣CASITA」だ。

事業主は、青森市に本拠をおき、年間400件を超える葬儀を施行する冠婚葬祭互助会の㈱リンクモア（社長船橋素幸氏）。地元では、古くから青森冠婚葬祭互助会で知られていたが、創業50年目に当たる昨年9月1日、「リンク=つながる、モア=もっと」の意を込めて社名を変更し、新たなスタートを切った。

平安閣CASITAは、その半世紀にわたる社歴を記念し、「平安閣本館」（06年9月開業）、「平安閣アネックス」（09年9月）に次ぐ、同社3か所目の葬祭会館としてオープンしたもの。

これら3つの会館は、街中の1街区に集積しており、特にCASITAとアネックスは同一敷地内に建ち、駐車場も共用している（図表）。既存の本館は2階建て、延床面積666㎡の広さで、ベージュ色の外壁が和風の趣きを感じさせる。アネックスは2階建て、延床面積588㎡の施設で、どちらも1階に通夜・葬儀用の式場や遺体安置室などを配置し、2階には法事用式場などを備えている。

図表「平安閣CASITA」周辺図



白亜の装いが眩しい「平安閣CASITA」

「青森市内は、葬儀の小規模化（家族葬化）が進んできており、いまでは50人程度の式が主流になってきています。それにひきかえ、本館もアネックスも、式場がそれぞれ150席、120席もあり、『大きすぎる』という声が会員様からも社内からも起こり、もう少し実情に合った家族葬向けの会館が望まれていました。さらに、近年では、さまざまな事情で病院から直入りするご遺体が6割程度まで高まってきており、その受け皿をきちんと確保する必要にも迫られていました」と、平安閣CASITAの総支配人である寺山明美氏は話す。

新会館構想は、オープンの2年以上前にもちあがったもので、創業50年の節目の年が近づいていたこともあり、記念にふさわしい葬祭会館として、会館設計に定評のある東京の設計会社の協力を得て、本館・アネックス以上にクオリティの高い遺体安置機能も備えた邸宅型の家族葬会館を目指した。

青森市民憲章にも謳われた森・空・海のイメージで、3つの葬送空間をアレンジ

CASITAが設置された場所は、アネックスが建つ敷地の奥で、もともと葬具などを収納する倉庫が建っていたところ。その建物を解体して更地にし、鉄骨造平屋建て、延床面積311㎡の施設を新築したものだ。

会館名に採用したCASITAとは「小さな家」の意で、外観は白亜の装い。アネックスを左手に見ながら正面のエントランスを入ると、メイン



CASITAから約600mほどの距離にある本社

■(株)リンクモアの概要

[所在地] 青森県青森市中央1-27-10

[設立] 1967(昭和42)年9月

※青森冠婚葬祭互助会として設立

[代表者] 船橋素幸

[従業員数] 23人

[施行件数] 400件強(年間)

[売上高] 38億円(2016年3月期)



メイン式場「IL bosco」(35席)。写真は柩を縦置きにしたケース



メイン式場の左に配置された式場兼遺体安置室「IL cielo」(上)と、スペース内奥の休憩室



いちばん人気の高い「IL mare」(右)と休憩室。場所柄床暖房が導入されている



IL mareに付帯するベッドルーム(14㎡)

式場「IL bosco」が配置され、その左手に式場兼遺体安置室「IL cielo」が、右手に同じく「IL mare」がレイアウトされる。

最も多い利用パターンは、cieloかmareのどちらかに遺体を安置。自宅のリビングのような雰囲気のなかでくつろぎ、故人を偲びながら食事をして翌日boscoで故人を送る。また、式場を利用せずにcieloかmareで6、7人程度の家族葬を営むこともできるという。式場兼遺体安置室としているのはそのためだ。cieloの広さは90㎡、それに対してmareは106㎡と若干大きく、かつスペース内の休憩室とは別にベッドルーム(14㎡)

も付帯しているため、mareの選択率が高い。

3つの葬送空間①bosco、②cielo、③mareという名称は、船橋素幸社長が名づけたもの。いずれもイタリア語で、①青い森(青森の豊かな森をイメージした空間)、②青い空(青森の澄み渡る空をイメージしたリビング)、③青い海(青森の穏やかな海をイメージしたリビング)の意味をもたせている。

この青い森・青い空・青い海は、05年4月に制定された「青森市民憲章」の一節として、「わたしたちは、青い空、青い海、青い森にいだかれ、悠久の歴史と香り高い文化と伝統に満ち

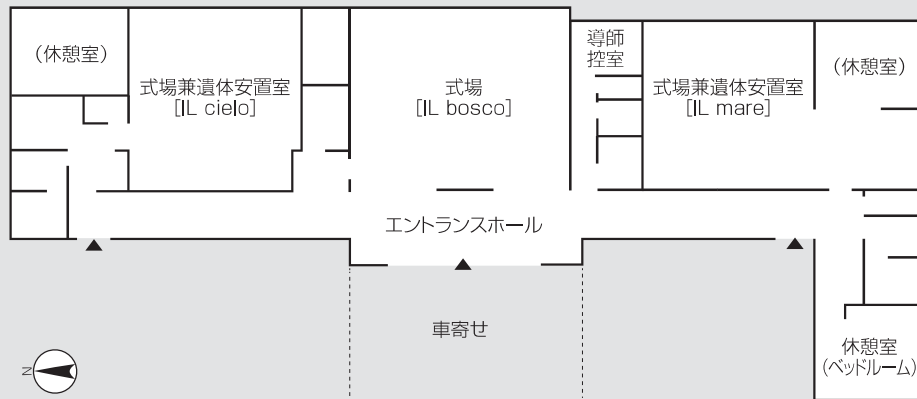


正面に見えるのが平安閣CASITA、
左が平安閣アネックス

施設概要

- 名称
平安閣CASITA（カシータ）
- 所在地
青森県青森市堤町2-4-2
- 連絡先
017-777-0410
- 開業
2016年9月26日
- 事業主体
（株）リンクモア
- 敷地面積
664㎡
- 建築面積
365㎡
- 延床面積
311㎡
- 建築構造
鉄骨造平屋建て
- 施設構成
式場「IL bosco」（35席）、式場兼遺体安置室「IL cielo」（休憩室含めて90㎡）、式場兼遺体安置室「IL mare」（休憩室含めて106㎡、ベッドルーム14㎡）、導師控室（5.4㎡）など
- 駐車場
80台（平安閣アネックスと共用）
- 総投資額
約2億円（土地代含む）

■施設平面図



た青森市の市民です。（後略）」と謳われていることから、船橋社長の強い郷土愛がうかがえるネーミングであるといえるだろう。

青森市の葬送慣習を変える実践の場として 4つのコンセプトを打ち出す

会館コンセプトにも徹底的にこだわり、同社では以下の「4つのところ」を掲げた。

①亡き人を弔うところ

bosco限定で運営スタッフが「白」の制服を着用するという新しい試みをはじめた。白という色に浄化や再生の意味を込めたもので、建物外観のまっさらな白にも通じるものがある。

②ご家族を想うところ

遺族と故人が最後の時間と空間をともに過ごす場として確保したのが、家族葬式場兼遺体安置室のcieltoとmareである。

③おもてなしのところ

青森の美味しいものを、地産地消の観点から、和食・洋食・中華・イタリアンなどをケータリングや弁当、オードブル形式で提供する。

④青森のところ

「青森を元気に!」と、ソファや座布団、家具やテーブル、ランプシェード、器など、館内に備える什器・備品等に青森県産の原材料や伝統的な工芸品を積極的に用いている。

この4つのところを前面に打ち出し、CASITAを地域にアピールするとともに、船橋社長は「CASITAで青森市の葬儀常識も破っていきたい」と意欲をみせる。「当地は後火葬（骨葬）の地域ですから、ご出棺前のお別れの儀式がありません。本館やアネックスでは取り組んでいなかったこの感動的なセレモニーを、ぜひCASITAから発信したい。時代が変われば葬儀の慣習も変わっていくべきなのです」と船橋社長が話すように、長年行なわれてきた慣習を変えていくのは、火葬場などの都合もありそう簡単なことではないが、CASITAをその最前線の実践の場として位置づけ、時間をかけてでも葬送習慣の変革にチャレンジしていくという。

3会館が集積したことで、需給双方でのメリットはさらに高まったといえる。お客様にとっては会館選択の幅が広がっただけでなく、3つの会館を一度に見学できる点は、他社にはないアピール材料となる。リンクモアにとっても、葬具・道具の集中管理、臨機応変なスタッフ配置、突発的なトラブルにも対応しやすい、といった点は運営上の大きな強みとなるからだ。

こうした好材料が功を奏した結果、オープン半年後の件数は現在、目標とする年間100件ペースで推移。今後、青森市の葬儀を変える先例となれるか、その動向が注目される。